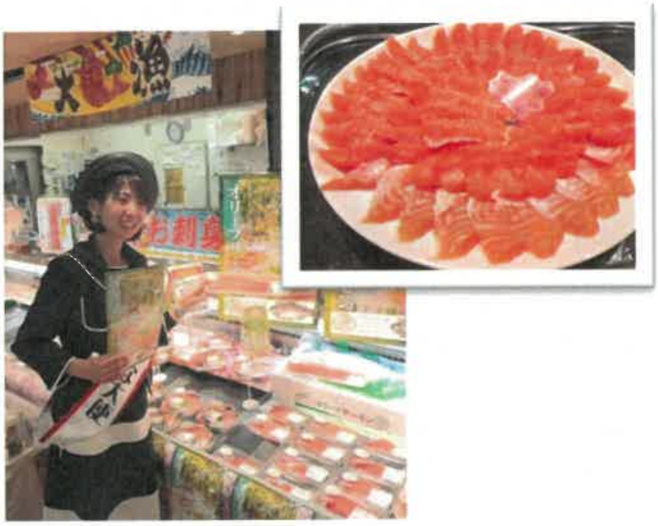
人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/

JF香川漁連
高松市北浜町８－25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699

オリーブサーモン販売開始！

オリーブハマチやオリーブマダイに次ぐ香川県の新たなブランド魚「オリーブサーモン」が４月１１日からスーパーや百貨店で本格販売されました。

販売初日 PR イベントとして、午前はムーミー林店、午後はムーミー川島店ではまうみ君と一緒に試食販売を行いました。お客様からは「美味しい」「脂がさっぱりしている」などと喜ばしい声をいただきました。生鮮（解凍品ではないもの）の販売は５月中旬までとなりますので、この機会にぜひ、生のサーモンをご賞味ください。（冨田千佳子）



中讃西部漁協合併調印式開催

多度津町漁協と丸亀市漁協の合併調印式が令和６年４月１７日（水）午前１０時より、オークラホテル丸亀において両漁協組合長他全役員と、来賓、関係者ら約４０名の出席のもと盛大に開催されました。

合併推進協議会会長である志摩多度津町漁協組合長が、「この度、多度津町漁協及び丸亀市漁協は、７月１日に合併し、新たなる中讃西部漁業協同組合として発足する運びとなりました。その証として、本日、合併契約書の調印式を執り行う次第でございます。振り返りますと、両漁協とも組合員の減少と高齢化などによる漁村活力の低下は著しく、さらには資源の減少、魚価の低迷、燃油・餌料価格の高騰など、漁協また組合員の経営もたいへん困難な状況となってまいりました。このような中、令和４年１０月に合併研究会を開催し両漁協の役員が協議を行い、先祖代々受け継がれてきた、地先の漁業と漁業権を守り、将来に残していくためには、原点に帰り、お互いに合併していくしか道はないとの結論に達しました。そして、令和５年１２月１２日に設立した「中讃西部漁協合併推進協議会」で度重なる理事会や組合長会を開催して、合併後の事業計画や財務計画の検討、さらに漁協施設の取扱いなどについて協議を行い、全ての合併条件に合意し、本日、晴れてここに合併調印式を迎えることができました。」との挨拶を行いました。

その後、丸亀市農林水産課川池課長による経過報告、香川県水産課柏山課長による合併契約書確認の読み上げが行われ、志摩多度津町漁協組合長、島丸亀市漁協組合長、立会人の丸尾多度津町長、松永丸亀市長、嶋野香川県漁連会長及び桑原県農政水産部長が合併契約書に署名捺印を行いました。

調印後、島丸亀市漁協組合長が「本日ここに、我々二漁協は、合併契約に調印し、本年７月１日より、新生「中讃西部漁業協同組合」として新たにスタートすることとなりました。この日を迎えられましたのは、ひとえにご出席の皆様を始め、多数の方々のご支援、ご指導の賜物であると改めて深く感謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げる次第であります。今後は、合併の効果を生かし、この豊かな漁場と漁業を未来に繋ぐとともに、資源管理や担い手の確保・育成など新たな役割を果たしていくことが、我々に課せられた最大の使命であります。」と決意表明をされました。最後に、嶋野香川県漁連会長が万歳三唱で締め、式典は無事閉会しました。

調印後の記念撮影

サワラの初競り

４月２２日（月）瀬戸内海に春を告げるサワラの初競りが高松市中央卸売市場で行われました。今年は、県内全地区の漁期開始日が４月２０日に統一された初年度となり、播磨灘、備讃瀬戸、燧灘にてさわら流しさし網の春漁が解禁となりました。早朝まだ薄暗い中、市場にはずらりとサワラが並び、午前５時半より競り人の威勢のいい掛け声を合図に初競りが始まりました。

最高値は、景気付けの意味を込める「ご祝儀相場」の１kg１０万円で、これまでで最も高かった昨年の７万円を更に上回りました。平均価格は（税込、キロあたり）１，３５１円（昨年１，０３８円)、本数は１，１３７本（昨年３，４４５本）とここ５年で１番少ない入荷となりましたが、今後の豊漁に期待したいところです。県水産試験場が測定した範囲での魚体重は２．２kg～８．０kg、平均３．８kgで、尾叉長が６４～１０１cm、平均７７．６cmとなり、昨年の初セリ時とほぼ同じサイズとなりました。

市場に並んだサワラ

初セリの様子

ニューフェイス紹介

アンケート項目

① 年　齢　　③ 趣　味
② 出身学校　④ これからの抱負

＜総務部　総務課＞

金子（かねこ）　純大（じゅんた）

①　２２歳
②　京都産業大学
③　散歩
④　社会人の自覚を持って一生懸命仕事に励みます。ご指導よろしくお願い致します。

令和５年度乾海苔共販結果

令和５年度は、栄養塩の低下や高水温等の影響で育苗・本張りが例年に比べて遅れたこと、クロダイ等よる食害被害の拡大、１２月中旬からの寒波による摘採の遅れにより、１２月の生産枚数は９３７万枚（前年比５１％）の生産量となりました。

１月に入っても栄養塩不足は継続し、一部の地域を除き県下全体で色調の浅い製品が生産され、２月中旬から海苔網の撤去が進みました。２月下旬には、降雨の影響で栄養塩が回復した浜も見られましたが、主要な浜はほぼ終漁となる状況になり、３月には一部漁場のみの生産となりました。

価格面では本年度も九州地区の不作の影響により単価は高騰しました。県下ほぼ全域の漁場で低栄養塩の影響の為伸び足が鈍く、色調の浅い製品が多くなったことにより、共販枚数・共販金額共に前年度を下回りました。

入札については全量完売となり、無札を出すことなく共販を終了することができました。

結果、共販枚数は１億６，３２１万枚（前年比７５％）共販金額は２３億１，７７５万円（前年比７１％）平均単価１４円２０銭（前年比９５銭安）の実績となりました。